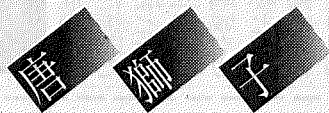


中国人に招かれた時、酒はもちろん、たばこを勧められることがしばしばある。さぞ戸惑ったろうが、これは中国人の接客マナーの一つである。中国ではたばこ酒だけはどれがだれのものではなく、皆で楽しむものだと思われている。いわゆる「煙酒」「不分家」である。

宴会の場でお互いに酒を注ぎあい、自分が持っているたばこを皆に配るのは普通の光景であり、そんな中で人と人が解け合い、いい雰囲気を作り上げる。自分一人だけでたばこを吸う人はけちと言われる。中国の結婚式では、日本のキャンドルサービスがたばこサービスに変わる。新婦が男性のお客さんなたばこを差し出し、火をつけてあげるのである。お酒もたばこも人との付き合いでは、潤滑油のようなものであるが、時にはいろいろに使われることもある。

昔前、お酒とたばこを手に、幹部の家を訪れるのが常識という時代もあった。中国語で「煙酒」と「研究」はほぼ同じ発音であり、「研究」は相談するという意味である。たばこ酒が、問題解決の早道のようなものであった。今、世界的には禁煙の風潮が強い

煙酒不分家



久場 未雲

にもかかわらず、中国のたばこ市場はまだまた景気がいい。統計によると、世界一のたばこ生産国である中国にはおよそ三・五億の喫煙者がいると推測され、世界の喫煙者の三分の一を占めるらしい。最近では禁煙席が設けられている場所も増えてきたが、堂々と公共の場でたばこをプカプカふかしている人はまだ多い。

中国のお酒と言えば「紹興酒」と「白酒」が有名である。紹興酒は日本でもなじみのあるお酒だが、白酒は中国古来の焼酎で、度数も高い。乾杯の際に「干杯」という一声で、飲み干すのが中国本来のルールだが、最近「随意」と相手に声をかけ、飲める分だけを飲むことも許されるようになった。「干杯」は宮古の「オトーリ」にやや似ている気がする。

中国では「酒逢知己千杯少（酒が親友にめぐり合い飲めば千杯も少なし）」の一句があり、沖縄の「いちやりばちよーでー」の心そのものである。お客さんや友を隔たりなく大事にもてなす気持が中国人とウチナンチュはよく似ている。お酒は「百薬の長」とも言われるが、飲みすぎにはくれぐれもご注意を。

(会社代表)